

# 熊本県

定数：6名

立候補者数：7名



氏名 坂崎 浩一

都道府県士会 熊本県

年齢 62

勤務先名称 熊本総合医療リハビリテーション学院



氏名 岸本 稔

都道府県士会 熊本県

年齢 45

勤務先名称 九州中央リハビリテーション学院

### 協会・士会役員歴／立候補の趣旨

この度 日本理学療法士協会 代議員に立候補致しました坂崎浩一と申します。約14万の会員数をもつ本会において、教育の質が学術の質を高め、学術の質と組織力が職能団体としての力を高めると思います。裾野広がる会員構成の中で、会員個々の意識を高めるとともに、組織を円滑に取りまとめることが重要です。県協会の会長として、また日本理学療法士協会の委員会活動の経験を活かし、日本理学療法士協会の方向性を会員に伝え、その意識を高めるべく働き掛けると共に、個々の会員の声を協会に伝えることを第一義に考え、今後の円滑な組織運営に少しでも貢献できればと思い立候補いたしました。何卒よろしくお願いいたします。

#### 【日本理学療法士協会活動】

- ・代議員（平成7年度～）
- ・組織部員（平成18～24年度）
- ・組織率向上特別委員会委員（平成25～27年度）
- ・表彰委員会委員（平成25年度～令和2年度）
- ・災害支援システム検討委員会（平成29～30年度）
- ・組織体制検討委員会委員（令和元年度）
- ・新組織検討委員会委員（令和2年度）

#### 【熊本県理学療法士協会活動】

- ・理事（平成2～5年度）
- ・専務理事 兼 事務局長（平成6～27年度）
- ・副会長（平成28～29年度）
- ・会長（平成30年度～）

### 協会・士会役員歴／立候補の趣旨

- 2004年～熊本県理学療法士協会 調査資料部部长
- 2016年～熊本県理学療法士協会 理事
- 2018年～熊本県理学療法士協会 副会長
- 2018年～熊本県理学療法士協会 代議員

2期目の立候補となります  
全国と士会の情報共有および連携を図りたく立候補致しました



氏名 筒井 宏益

都道府県士会 熊本県

年齢 60

勤務先名称 江南病院



氏名 波多埜 克宜

都道府県士会 熊本県

年齢 46

勤務先名称 にしくまもと病院

### 協会・士会役員歴／立候補の趣旨

#### 【協会、士会役員歴】

2003年4月～2004年3月 第9回熊本県理学療法士学会長  
 2009年4月～現在に至る 熊本県理学療法士協会理事  
 2009年4月～現在に至る 熊本県理学療法士協会学会評議員長  
 2020年4月～現在に至る 熊本県理学療法士協会 教育學術局長  
 2022年4月～ 日本理学療法士協会 代議員  
 2022年4月～2023年11月九州理学療法士學術大会2023 in 熊本  
 副準備委員長  
 2023年4月～現在に至る 熊本県理学療法士協会學術誌担当理事  
 兼編纂委員

#### 【立候補の趣旨】

私は、平成21年4月より熊本県理学療法士協会理事を務めてまいりおり。現在、教育學術局長、学会評議員長を拝命しています。また、2024年8月に発刊予定の熊本県理学療法士協会學術誌「熊本県理学療法アドバンス」の担当理事兼編纂委員として活動しています。

2022年4月からは日本理学療法士協会代議員も務めております。我々は、国民及び患者様から更に支持をされるように団体及び個人の質向上を目指さなければなりません。學術的質向上により、県民の健康増進のサポート、疾病や障がい等に起因した生活上の問題を抱える全ての方々のQOL向上、地域包括ケアシステム構築の推進等に貢献できると思います。

代議員として具体的には ①専門理学療法士及び認定理学療法士数の増加（現行の取得更新ポイントの多様化、柔軟化）②地域包括ケアシステムの積極的参入③新入会員入会率の向上 ④処遇改善 等に向けた取り組みを積極的に行っていきたいと思っております。

### 協会・士会役員歴／立候補の趣旨

#### 【協会役員歴】

2020年 日本理学療法士協会代議員1期目  
 2022年 日本理学療法士協会代議員2期目  
 【士会役員歴】  
 2018年度 熊本県理学療法士協会理事1期目  
 2020年度 熊本県理学療法士協会理事2期目  
 2022年度 熊本県理学療法士協会理事3期目  
 その他  
 2019年度 第23回熊本県理学療法士学会 学会長  
 2023年度 九州理学療法士學術大会2023 in 熊本 事務局長

#### 【立候補の趣旨】

このたび日本理学療法士協会代議員選挙に立候補いたしました、波多埜克宜と申します。立候補した理由としましては日本理学療法士協会の事業や方針を県士会の中でどの様に活かすか、これまでの経験をもとに公益社団法人として県士会員のみでなく、県民のためにより良い事業が展開でき、熊本県における理学療法士という存在が、これまで以上に県民から求められるように尽力したいと考えていることを挙げます。

2018年度より熊本県理学療法士協会の理事を拝命しております。各会員が所属する職場における理学療法士に関わる課題はもちろんですが、当県士会の中でも多くの課題があり、その声を日本理学療法士協会に届けることが必要と考えております。ですので、代議員の立場から日本理学療法士協会と当県士会のパイプ役として組織力向上が図れるように微力ながらお役に立てれば幸いです。

理学療法士の社会的立場がより向上することで、認められ、求められる職能団体となれるように、私ができる「一所懸命」の精神で、会員各位のために尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



氏名 田島 徹朗

都道府県士会 熊本県

年齢 64

勤務先名称 九州中央リハビリテーション学院



氏名 佐藤 亮

都道府県士会 熊本県

年齢 56

勤務先名称 山鹿温泉リハビリテーション病院

### 協会・士会役員歴／立候補の趣旨

- ◆(社)日本理学療法士協会  
平成21年～平成24年度 九州ブロック研修部協力スタッフ  
平成22年～平成23年度 代議員
- ◆(公社)日本理学療法士協会  
平成24年～令和4年度 代議員
- ◆(社)鹿児島県理学療法士協会  
昭和61年～昭和62年度 教育部副部長
- ◆(社)熊本県理学療法士協会  
平成06年～平成11年度 学術部長  
平成12年～平成24年度 理事  
平成21年～平成24年度 学会評議員長
- ◆(公社)熊本県理学療法士協会  
平成25年～令和4年度 理事  
平成25年度 学会評議員長

#### 【立候補趣旨】

理学療法士は、何が出来る、これから何をすべきかと、問いかける日々が続いています。医療・福祉分野において、重要な位置を担う職域として注目されていますが、その活動には制限があり目標を見失うこともあります。各地域と中央が連携し情報の共有と活動を行うことで、リハビリテーションの中核的立場を確立できると信じています。私自身、教育現場に身をおくことから、一人一人の夢を育てる役割ができればと思っています。また、少子高齢化への対応は地域に期待されています。今後、ますます多様化する現況に一丸となって慢心できる協会活動を支援できるように活動したいと考えます。

### 協会・士会役員歴／立候補の趣旨

- 【協会・士会役員歴】  
2002.4～2012.3：熊本県理学療法士協会広報部部長  
2012.6～：熊本県理学療法士協会理事

#### 【立候補の趣旨】

このたび日本理学療法士協会代議員選挙、熊本選挙区に立候補した佐藤と申します。熊本県理学療法士協会の広報部長を10年、理事を6期(12年)務めさせて頂き、今期をもって退任することになりました。理事在任中は、広報部長の経験を活かし、部長や部員の負担を減らし、若い会員の皆様が協会活動へ参加したいと思える組織となるように活動して参りました。時代の流れに合わせ協会活動のスリム化、協会イメージを視覚的に訴えるビジュアルアイデンティティや協会のBCP策定などに取組みました。また、熊本地震以降、災害リハビリテーション分野の教育に携わっており、2017年には「大規模災害リハビリテーション支援チーム本部運営ゲーム(REHUG)」という教育教材を開発し、当協会が登録商標を行っています。現在は、一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会に新設されたLスタッフの必須研修に指定されています。熊本県の会員数は3000名を超え、2023年3月現在全国13位となっております。想像以上に大きな組織となり、会員の意見を反映させることも難しくなっております。日本理学療法士協会においては、40歳までの会員が約7割となっており、非常に若い団体となっております。私としては若い会員の意見を吸い上げられるようにしていきたいと思っております。日本理学療法士協会は私たちと同じ方向を向いて活動している団体です。もっと会員と協力関係を築くことで、会員にとって良い結果が生まれるのではないかと、現状ではその連携が十分ではない、との会元に至り、そのつなぎ役として、今回代議員に立候補致しました。よろしくお願い致します。



氏名 河添 竜志郎

都道府県士会 熊本県

年齢 61

勤務先名称 株式会社 shiori

### 協会・士会役員歴／立候補の趣旨

#### <日本理学療法士協会の活動歴>

2010年～2014年 生活環境支援理学療法研究部会 部員  
2013年～2021年 認定試験委員会 委員  
2014年～2019年 日本地域理学療法学会 運営幹事  
2014年～2019年 日本支援工学理学療法学会 運営幹事  
2016年～現在 公社)日本理学療法士協会 代議員  
2019年～2019年 一社)日本地域理学療法学会 理事  
2019年～現在 一社)日本支援工学理学療法学会 副理事長  
2022年～現在 認定試験生活環境支援分野問題作成部会 部会長  
2023年度 障がい者団体助成事業選考委員会 委員  
2023年～現在 広報媒体検討作業部会 部会員

等

#### \*\*立候補の趣旨\*\*

長年医療機関での理学療法の提供や地域での事業所としての活動、福祉用具の開発や生活環境の整備など多岐にわたり活動してきました。特に、介護保険の導入など医療や介護を取り巻く激変の中で、理学療法をもととして患者さんや利用者さん、事業所の運営者、企業の技術者の方々など多くの方々と接してきました。そこで感じたことは理学療法の技術や考え方は非常に重要な技術であるということです。今後2035年、2045年とまだまだ変化を求められる中で私たちの技術はより役に立つ技術としてさらなる発展が求められてきます。そのような中で、今後の県協会の運営はより独自性をもった運営が求められてきます。そこに、これまで全国の協会での経験や学会活動での経験と活動をつなぐ役割を担うべく、引き続き代議員に立候補いたしました。